

# 文献センター通信

第 10 号  
2009 年 3 月 31 日  
一部 100 円

主な内容

ホームページ・リニューアル  
カレンダー制作にご協力を  
立原正秋と『自由朝鮮』  
富士宮だより 身延線紀行  
藤本文庫・目録(5)  
運営委員会議事録

8 7 4 3 2 1

何号にもわたって予告して参りました、当文献センターのホームページが新しくなります。新たな Web にご期待ください。

今回の変更の目的はいくつかあります。

できる限り新しい情報を数多く掲載すること。そのためには、記事を載せやすくすることが必要です。これまで、ホームページ (HP) の修正・掲載の担当者が一人で面倒を見ていました。そのため、担当者を拘束することになり、また時間を割けない等の事情があれば頻繁な更新ができませんでした。この専任者の仕事を分散して、HP の管理を複数の人間が担うことで、より鮮度の高い情報を皆様に送ることができるよう

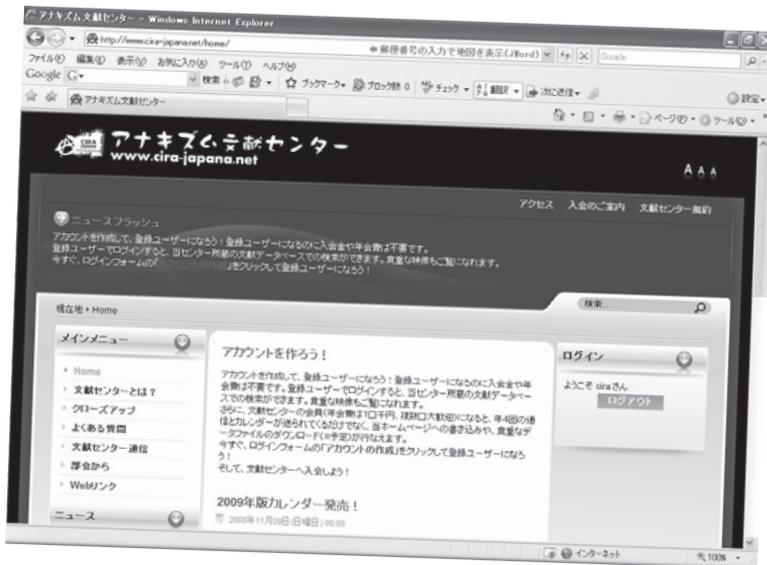
## ホームページ リニューアル!

うになるはずです。各部会のニュースも順次、掲載する予定です。もちろん、鮮度管理の責任は運営委員会が負うこととなります。

データベースを公開すること。これまで、アナキズム文献センター所蔵の単行本・雑誌等のデータベース (デジタル化) を進めてきました。邦文の単行本については書名・著者・発行所・目次 (二部) のデジタルデータと現物の照合が終わり、かなり確度の高いものにできました。雑誌とその中の主要な論文についても確認が終わりました。そこで、一般にも公開することにしました。

当センターの会員でなくとも HP 上でユーザー登録をすれば、当セン

★データベースを操作するにはログインが必要です。アカウントは簡単な操作で取得できます。「アカウントの作成」コーナーで、ユーザー名などを登録するだけです。



<http://www.cira-japana.net/>

ターがどういった文献を保管しているかを知ることができます。また、文献センター会員であれば、より詳しい内容を知ることができます。サービスの具体的内容は、今後、詰めていきます。

より多くの人に当センターの存在を知ってもらうこと。そして、会員増に結びつけます。興味を持って文献センターのHPを訪ねたときに、休業状態であるかのように思われることを避けたいのです。当センターはそれなりの活動

★カレンダー部会より、2010年カレンダー作成に向けた会員の皆様のご協力を呼びかけます！★

1月の運営委員会で次年版カレンダーを作成することで合意しました。とりわけ好評だった07年版の中判・月めくりの形式を追求しようと思成りました。

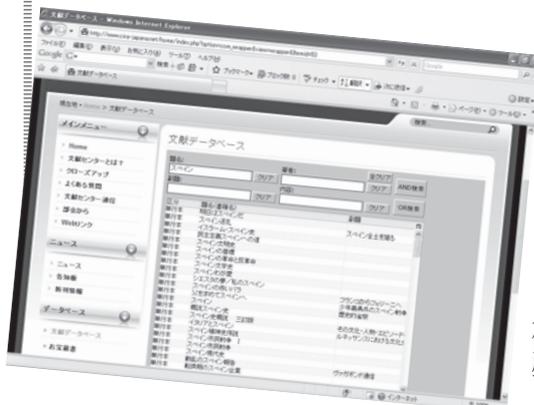
を行ってきています。しかし、そのことが知られないままでは、文献センターの存在すら忘れられてしまいます。メーリングリスト以外でも、活動の内容を公開し、より多くの方に参加を促します。結果、当センターの財務内容の改善、蔵書の拡大に向かっていけるのではないかと考えます。

※

ホームページ上に掲載された主要な記事のいくつかは、このセンター通信にも「記録として」載せ

肝心なのは図版で、12ヶ月分を選定しなくてはなりません。富士宮のセンターでも図版探しを行う予定ですが、CIRA A会員が所蔵される図版を活用できればとも考えています。写真、ポスター、旗、チラシ、イラスト、寄せ書き、手紙など、お手持ちの図版でCIRA Aカレンダーにふさわしいものがあればぜひご提供願えませんで

ることにします。



(佐藤)

しようか。

4月中にお申し出頂けると幸いです。資料提供に限らず、図案についてのご意見・ご提案も大歓迎です。

ちなみにカレンダー作成は、9月中の編集作業終了、10月中の完成を目指しています。どうぞ宜しくお願い致します。(カレンダー部会)



右：アナキズム年表  
上：データベース検索

### アナキズム文献センター 会員を募集!

文献センターの活動の実質化を図るべく、当面は会員制のもとで活動・体制づくりを進めています。参加を広く呼びかけています。皆様の積極的な参加をお願いします。会費は年間一口一〇〇〇円としていますが、可能であれば複数口でお願いいたします。

【資料紹介】

立原正秋と『自由朝鮮』

小説の類いとは縁のない日々であるが、『自由朝鮮』の活字が目にとまった。その記事（日経10月20日・夕刊）は、「夢は枯野を」などの小説で知られ、朝鮮半島で生まれた直木賞作家、立原正秋（1926〜80年）が、作家として本格的に活動をする前の49年に、自らの民族名「胤奎」で小説「ある父子」を『自由朝鮮』同年2月号に発表していたことが分かった。立原氏は晩年まで、両親は「日韓混血」としていたが、二人とも朝鮮人だったことが後に明らかになっている。立原氏が生涯抱いていた複雑な民族意識を知る上で貴重な資料といえそうだ、と報じていた。

『自由朝鮮』はアナ系雑誌でセンターでも所蔵している。3冊のみであるが、他にコピーが1冊分

あったはずであるが、それは見つけられなかった。解説を付け加えることはできないが、参考までに調べ得た目次を掲載しておく（なお、頁数の入った号を所蔵、頁のないものは広告記事より採録）。

1947年12月号 第1巻・第6号

巻頭言

自主獨立の心構え 柳林 5

現實外交の方略 金一星 8

一九四七年の回顧 鄭泰雲 11

A 一九四七年の朝鮮政局を觀る

B 在日朝鮮團體の一年間の足跡をたどる

一、在日朝鮮人連盟

二、朝鮮建國促進青年同盟

三、在日朝鮮人居留民團

四、學生同盟

五、實業團體

六、文化團體

文化再建と學徒 M・S生 35

朝鮮の農業體勢 植村諦 30

愛國とパン 宋路基 36

東亞一年史（一九四七年） 編集室 38

不快な朝 李耕人 46

クロボトキンの思想と人物 石川三四郎 47

對日講和と朝鮮獨立を語る

甘文芳・大來佐武郎

木原通雄・權逸

朝鮮建國運動と建國精神 鄭哲

歴史の創造と民族の生命 杉原荒太

ノーベルとはどんな人か U・M

朝鮮引揚に思う 森田芳夫

「共產黨宣言」是非 小笠原秀實

1948年3・4月合併特別號

共產主義の解剖 成常煥

現代政治に於ける根本動因の問 金正桂

安重根の死と最後の陳述 太林人

三・一獨立運動記念日を迎えて 柳濟哲

ガンジーの死と印度 饒平名智太郎

中間階級思想としてのマルクス主義 白井新平

1948年5月號

南鮮總選舉を語る

佐野學・今中次磨・植村諦

宍戸寛・韓何然・鄭泰雲

世界平和と朝鮮獨立—南朝鮮總選舉をめぐる 鄭哲

労働組合の去勢化—お祭りメーデーに關連して 田文植

帝國主義的冷たい戦争につながる朝鮮人學校問題 李林道

在日朝鮮人團體の動向—南朝鮮總選舉を前にして 雲龍洞人

組合民主化運動の發展 相澤尚夫（8頁に続く）

## 富士宮だより 身延線紀行

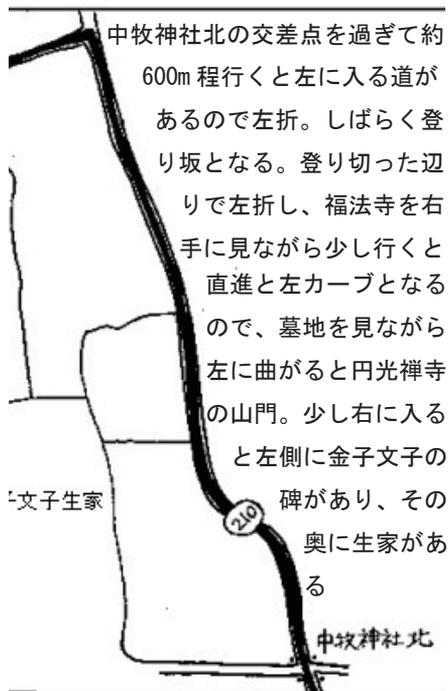
世の中には往々にして行き違ふことが多い。

昨年来、岩佐作太郎さんと綿引邦農夫さんが遺されたアナキストクラブの資料を戸田三三冬さんのところで少しずつ整理する手伝いをしていた。作業の合間に綿引さんに宛てた望月桂さんの手紙があり、その手紙には「俺も久太の注文で死灰で月見草に花を咲かせてやった」と記されていた。

ちよつと意味が分からなかった

のだが、これは遺灰で（もちろん土に混ぜてということであろう）月見草の花を咲かせた。そして「戸田さんがその鉢を見たと言言してくれた」と通信5号に報告したところ、戸田さんから「あれは違ふわよ！」とのクレームがきた。私がつきり「月見草の鉢」と思い込んだのは、鉢ではなく「押し花」であったことは、「古川時雄さんの話」として戸田さんが次号で訂正・補足してくれた。

そんな経緯のうちに、その「押し花」はどうなったか、時雄さんが持っていた資料はその後どうなったのかとなって、一度山梨の望月百合子資料館を見に行こうか



中牧神社北の交差点を過ぎて約600m程行くと左に入る道があるので左折。しばらく登り坂となる。登り切った辺りで左折し、福法寺を右手に見ながら少し行くと直進と左カーブとなるので、墓地を見ながら左に曲がると円光禅寺の山門。少し右に入ると左側に金子文子の碑があり、その奥に生家がある

という話になった。

かくして今年の5月下旬、鰻沢を訪ねることとなった。戸田夫妻に山田、私が彼の地の佐藤信子さんの案内で——ということに話はまとまった。昼すぎに鰻沢の駅で合流する約束であった。

私は久々に甲府で少しうろつこうと思つて早目に出かけた。甲府

はかれこれ30年余りの昔、越境の会という研究会のメンバーで数回、積水寺とか古湯坊といった温泉宿で合宿したことがあつて、その縁で身近かとなつていた。薄れた記憶をもとに武田神社まで足を伸ばしたものの、時間の制約と小雨模様の天気もあつて慌ただしかった。表面は御多分にもれず様変わりであつても、昔歩いた道と街並みの態様に異なることはなかった。

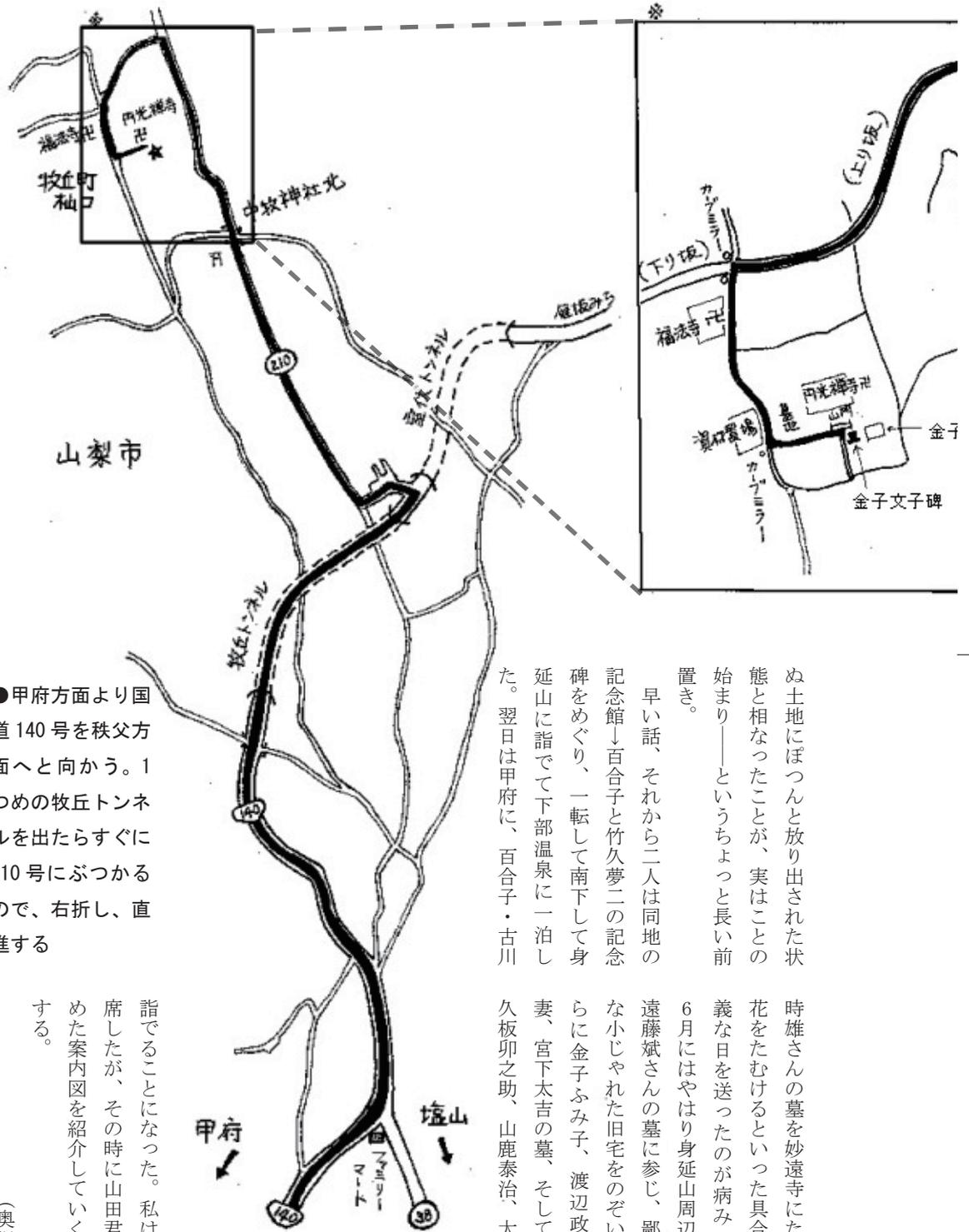
鰻沢までの身延線の本数は少ないから多分、戸田夫妻とは同じ電車で乗り合わせるだろうと思つて

いたが、ベルが鳴つても、ホームをのぞきしても姿はなかった。駅舎に向かい合つた小さな雑貨店が一軒ポツリと佇んでいるだけの鰻沢は映画の一場面そのままの雰囲気、降りた数人が各々に散つてしまふと人影もない。はてな……？

仕方なく、山田君の携帯に電話すべくボックスに入つて手帳を繰りながらふと外に目をやると、お店の前にはいつの間にか車が止まっていた、山田君が笑つている。そして戸田さんが朝方、自宅で倒れた話を聞いた（現在は自宅でリハビリ中、メールのやりとりは可とのことです）。関係者にはすぐ電話連絡があつたのだが、既

に私は出かけてしまつていたらしく、しかも携帯を持ち歩かないので中止の連絡はとどかない。仕方なく、山田君は出かけてきたという次第。

という訳で、大の大人が見知ら



●甲府方面より国道140号を秩父方面へと向かう。1つめの牧丘トンネルを出たらすぐに210号にぶつかるので、右折し、直進する

詣でることになった。私は一部欠席したが、その時に山田君がまとめた案内図を紹介していくことにする。

(奥沢邦成)

ぬ土地にぼつんと放り出された状態と相なったことが、実はことの始まり——というちよつと長い前置き。  
早い話、それから二人は同地の記念館↓百合子と竹久夢二の記念碑をめぐり、一転して南下して身延山に詣でて下部温泉に一泊した。翌日は甲府に、百合子・古川

時雄さんの墓を妙遠寺にたずねて花をたむけるといった具合に有意義な日を送ったのが病みついて、6月にはやはり身延山周辺にある遠藤斌さんの墓に参じ、鄙には稀な小じやれた旧宅をのぞいて、さらに金子ふみ子、渡辺政太郎夫妻、宮下大吉の墓、そして伊豆の久板卯之助、山鹿泰治、大杉栄を

現代史資料 (31) 満鉄 (一)	伊藤武雄／荻原極／藤井満洲夫 (編)	みすず書房
山田盛太郎著作集 第一巻	再生産過程表式分析序論ほか 山田盛太郎	岩波書店
山田盛太郎著作集 第二巻	日本資本主義分析 山田盛太郎	岩波書店
山田盛太郎著作集 第三巻	再生産表式と地代範疇ほか 山田盛太郎	岩波書店
山田盛太郎著作集 第四巻	農地改革の歴史的意義 山田盛太郎	岩波書店
山田盛太郎著作集 第五巻	戦後循環の性格規定, 経済学原理ほか 山田盛太郎	岩波書店
山田盛太郎著作集 別巻	戦後重化学工業段階の基礎的研究ほか 山田盛太郎	岩波書店
元始、女性は太陽であった 下	平塚らいてう	大月書店
一九三〇年代を生きる	牧瀬菊枝	思想の科学社
黒い卵 占領下検閲と反戦・原爆詩歌集	栗原貞子	人文書院
占領期の労働運動 上	二・一スト挫折後の反撃 長谷川浩	亜紀書房
占領期の労働運動 下	産別会議最後の対決 長谷川浩	亜紀書房
天皇制を問う 2・11集会・講演集		名古屋YWCA
たった十人ではじまった反乱	杉浦登志彦	雑誌C&D出版部
松木千鶴詩集	松木千鶴 松木千鶴詩集刊行会 (編)	ぱる出版
わが異端の昭和史	石堂清倫	勁草書房
西田信春書簡・追憶	石堂清倫／中野重治／原泉 (編)	土筆社
近きより	正木ひろし	弘文堂
近きより 1	正木ひろし	旺文社
近きより 2	正木ひろし	旺文社
近きより 3	正木ひろし	旺文社
近きより 4	正木ひろし	旺文社
近きより 5	正木ひろし	旺文社
わが法廷闘争	正木ひろし	現代社
山辺健太郎	回想と遺文 遠山茂樹／牧瀬恒二／犬丸義一／藤井忠俊 (編)	みすず書房
20世紀の意味	石堂清倫	平凡社
一九三〇年代の美術	不安の時代 ルーシー＝スミス, E 多木浩二／持田季未子 (訳)	岩波書店
とくと我を見たまえ	若松賤子の生涯 山口玲子	新潮社
回想の尾崎秀実	尾崎秀樹 (編)	勁草書房
三頭立の馬車	労働者文学への視点 岡田孝一／大牧富士夫／藤森節子 活動家集団 思想運動 出版部	
革命家失格	大井廣介	拓文館

(次回に続く)

<http://www.cira-japana.net/>

## 藤本文庫・目録（第5回）

- 農村青年社事件・資料集 別冊・付録 相京範昭（編集人） 農村青年社運動史刊行会  
 千本組始末記 柏木隆法 海燕書房  
 松川詩集 松川詩集刊行会（編） 宝文館  
 わが回想 3 人間・歳月・生活 エレンブルグ、イリヤ 木村浩（訳） 朝日新聞社  
 わが回想 4 人間・歳月・生活 エレンブルグ、イリヤ 木村浩（訳） 朝日新聞社  
 わが回想 5 人間・歳月・生活 エレンブルグ、イリヤ 木村浩（訳） 朝日新聞社  
 わが回想 6 人間・歳月・生活 エレンブルグ、イリヤ 木村浩（訳） 朝日新聞社  
 松川事件 写真 伊藤昭一 東京中日新聞  
 松川十五年 真実の勝利のために  
 松川事件対策協議会／松川運動史編纂委員会（編） 労働旬報社  
 とりもどした瞳 松川の家族たち 編集委員会（編著） 大同書院出版株式会社  
 松川事件資料集 No2 赤間被告の自白 松川事件資料刊行会（編） 松川事件資料集刊行会  
 帝銀事件 立証された平沢の無罪 森川哲郎 三一書房  
 人・佐藤一平 その足跡 人・佐藤一平編集委員会（編） 東海日日新聞社  
 文学・可能性への展望 地方での根拠地づくり 岡田孝一 オリジン出版センター  
 ある社会主義者のひとり言 近藤信一 近藤信一先生の出版と喜寿を祝う  
 多摩源流を行く 瓜生卓造 東京書籍  
 元始女性は太陽であった 上 平塚らいてう自伝 平塚らいてう 大月書店  
 現代史資料 (3) ゾルゲ事件 (三) 小尾俊人（編） みすず書房  
 現代史資料 (4) 国家主義運動 (一) 今井清一／高橋正衛（編） みすず書房  
 現代史資料 (5) 国家主義運動 (二) 高橋正衛（編） みすず書房  
 現代史資料 (6) 関東大震災と朝鮮人 姜徳相 ほか（編） みすず書房  
 現代史資料 (7) 満州事変 小林龍夫／島田俊彦（編） みすず書房  
 現代史資料 (8) 日中戦争 (一) 島田俊彦／稲葉正夫（編） みすず書房  
 現代史資料 (9) 日中戦争 (二) 臼井勝美／稲葉正夫（編） みすず書房  
 現代史資料 (10) 日中戦争 (三) 角田順（解説） みすず書房  
 現代史資料 (11) 続・満州事変 稲葉正夫／小林竜夫／島田俊彦（編・解） みすず書房  
 現代史資料 (12) 日中戦争 (四) 小林龍夫／稲葉正夫／島田俊彦／臼井勝美（編・解）  
 みすず書房  
 現代史資料 (13) 日中戦争 (五) 臼井勝美（編） みすず書房  
 現代史資料 (14) 社会主義運動 (一) 山辺健太郎（解説） みすず書房  
 現代史資料 (15) 社会主義運動 (二) 山辺健太郎（解説） みすず書房  
 現代史資料 (16) 社会主義運動 (三) 山辺健太郎（解説） みすず書房  
 現代史資料 (17) 社会主義運動 (四) 山辺健太郎（解説） みすず書房  
 現代史資料 (25) 朝鮮 (一) 三・一運動 (一) 姜徳相（編） みすず書房

<http://www.cira-japana.net/>

**運営委員会議事録(抄)**

【1月運営委員会議事録】

1月17日

■ 目録については旧目録と新目録の一本化作業を進めている。作業が終わり次第、その時点での目録を公開する。Webサイトでの公開のほか、会員のうち希望者にはメールもしくは他の媒体(FD、CD等)で送ることも視野に入れる。また、平井文庫、藤本文庫については冊子の形にする。

■ 今後は寄贈されたものについて、冊子をつくるスタイルを確立する。なお、山鹿文庫の目録化にも着手している。

■ Webサイトがまだまだ活用しきれしていない。もつと情報(新刊情報など文献センターらしい情報)を集約して、活性化させるようにする。また、新刊情報のほか、蔵書の紹介(文献センターにはこ

んなものがある、というようななどのコーナーを設けてもよいのではないか、という意見も。

【2月運営委員会議事録】

2月21日

■ カレンダーは3年前につくったような12枚の形にする。使えそうな素材を各自、5月中までにそろえること。

■ 戦後アナキズム年表については、カレンダーとの関わりもあり、年表作りをはじめていく。

■ Webサイトの新サイトが完成。各自が投稿できるようになり、サイトの充実を図っていく。新刊情報をはじめ、過去のカレンダーの図版などなど、いろいろと掲載する。なお、目録公開のレベル(会員か否か等)はルールを決めていく。

■ 事務所費のセンター負担分の支払いを開始した。

(3頁より)

1948年6月號 第2巻・第6月號(通巻11號)

共産主義と朝鮮獨立	白太道	4
朝鮮のギルド制度	鄭寅錫	8
詩 三十八度緯線―ピエール・ドゥブレに倣つて	永見七郎	20
経済と犯罪	大門一樹	26
サナダ蟲と官僚	伊串英治	34
選挙後談	雲龍洞人	46
資料 朝鮮南北要人會談―南朝鮮總選挙を廻つて	編輯室	48
民主議會	蒙通口利	52
共産主義の解剖	成常煥	53
1948年7月號 第2巻・第7月號(通巻12號)		
無政府主義と朝鮮獨立	鄭太林	2
二つの世界	曹寧柱	6
支配なき社会	エドワード・カーペンター	16
在日朝鮮人團體の政治的動向	石川三四郎譯	

雲龍洞人 26  
現状勢に対する科學の使命 小笠原秀實 28

喪失過程の權力 鬼一平 38

(資料) 南鮮國民議會と南北要人會談後の兩金氏 編輯室 49  
所謂民主議會と選挙 馬哲洙 53



アナキズム文献センター通信 第10号  
発行/二〇〇九年三月三十一日  
発行所/アナキズム文献センター  
編集/運営委員会  
連絡先/東京都新宿区新宿  
1の30の12 三月工房気付  
郵便振替口座/  
00850-3-30010  
口座名 A文献センター  
Eメール/  
info@cira-japan.net  
定価/一部一〇〇円